

声

業界の



● 山梨県アパレル工業組合

理事 川手正紀氏

業界の現況は？

当業界では、昨年の東日本大震災の発生以降、東北地方での縫製加工の生産が大幅に落ち込み、地震の影響の少なかった地域に生産がシフトした結果、県内でも生産量が増え、業況は堅調に推移しています。しかし、当組合の組合員は、下請や委託製造といった縫製加工業者が約9割を占めており、受注量はあるが価格決定権がなく厳しい立場に置かれているのが現状です。

また、当組合では平成16年から「外国人研修生共同受入事業」を実施し、毎年中国からの実習生を組合員企業が受け入れ、日本の縫製技術を習得してもらっています。ところが、福島原発事故の影響や最近の尖閣諸島の領有権問題による日中関係の悪化により、実習生のご両親が日本で生活させることに非常に慎重になっています。組合としては、今後の受け入れについて、日本での身の安全や安心して働ける環境等について丁寧に説明し、より良い関係を築いていけるよう注力していきます。

今後の展開は？

当組合は縫製加工業者を中心に組織されていますが、今後は各組合員企業が縫製加工業から製造販売までを一貫して担える体制が必要になると考えています。これにより、各企業で製造から価格の設定までを行うことができます。また、製造販売においては、大手アパレルメーカーが製造する万人向けの商品とは一線を画し、ターゲットを絞りながら消費者の目線に立ち、個々の個性を大切に商品提案していきたいです。

その他、外国人実習生の受け入れ体制については、より良い環境の中で働いてもらえるようサポートし、近年では中国の人々が日本の文化に興味を持っていることもあり、仕事以外での交流も積極的に図っていきたいと考えています。

当組合の組合員は33年前の設立当初の10分の1となり、後継者問題などを抱えています。組合員の中にも活発に企業経営を行っている若手経営者がおり、技術継承を行いながら、業界の発展のため尽力していきます。



川手理事と中国人実習生の皆さん